

エンブレム・ブックの江戸文化に対する影響に関する研究

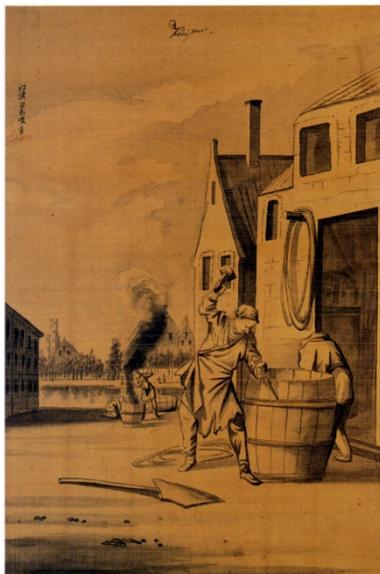
伊藤博明（教養学部・教授）

1 オランダのエンブレム・ブックの舶来

江戸時代に長崎の出島を通して舶来された、文化的・芸術的な書物、とりわけ、17世紀にオランダで刊行された、ヤン・ライケン、およびアブラハム・サンタ・クララによるエンブレム・ブック（モットー・図像・エピグラムを具えた倫理的著作）の諸版とその内容について調査し、それらの関係について詳しい知見が得られた。

2 ヤン・ライケンと司馬江漢

これらのエンブレム・ブックの中でも、ヤン・ライケンの『人間の生業』の、江戸時代の洋画家で、日本最初の銅版画家である司馬江漢（1747-1818）の諸作品に対する影響について、これまでの研究上の諸成果をまとめて考察することにより、総合的な理解を得ることができた。たとえば、江漢の《西洋樽造図》〔図1〕は、ライケンの「樽造職人」〔図2〕のほぼ忠実な再現であるが、《異国工場図》〔図3〕は、「錫職人」〔図4〕を範としながらも、遠近感を強調した独自の空間が創出されている。



〔図1〕



〔図2〕



〔図3〕



〔図4〕

